

おらほの 歳時記 2011

長野地区



葉タバコの畑

長野地区は、金山町の西端にあるならかな地形にある集落です。

昭和二十二年に満州開拓団からの引揚者で、西村山郡出身者を始めとする方々が入植し、この地を開拓しました。当初は、入植者全員が「食・住」を共にし、仮屋の建設に始まりました。

昭和二十八年にようやく農地の整備が一段落しましたが、当時三年続いた冷害と干害により大凶作に見舞われ、住民を苦しめました。

また、酸性度が強い地質のため、堆肥などの投入により土壌改良を余儀なくされましたが、努力の結果、葉タバコ栽培や養蚕に取り組み、安定した農業経営の出来る耕地を作ることが出来ました。

そして、昭和四十四年に開田事業により、稲作を中心とした農業経営に移り変わりました。

そつした生活の中で、地区を見下ろす高台に牛と寅の守り本尊である虚空蔵菩薩様を奉り、毎年、五月と九月の十三日を祭典日とし、一年の豊作と家内安全を祈願しています。祭典当日は、町内他地区からも参拝に訪れる方もおり、農作業の合間の憩いの集いは、長年継承されています。虚空蔵菩薩様の境内には、同時入植した朴山、西部、東部（荒屋）、そして長野の四つの開

拓組合の開拓記念碑が建てられています。開拓記念碑には、「開拓不滅」と刻まれ、虚空蔵菩薩様と共に開拓の歴史



虚空蔵菩薩様



開拓記念碑

史の象徴となっています。

そして、その二つの象徴の周りには桜の木が植えられており、毎年五月の

祭りの頃に満開となり、私たちを和ませてくれます。

入植時、二十二世帯だった戸数も六十年を経て、現在は、十一世帯になりました。

「農地・水・環境保全向上対策事業」では、農道の砂利敷きや草刈りなど整備を行いました。また、女性部も参加して地区公民館周辺の花苗の移植を行いました。きれいに整備された農道で夏の夜に見上げる夜空のパノラマは言葉では表すことの出来ない美しさです。

子ども会では地域内の空き缶拾いや八月のお盆に行われます。夏祭りでは子供たちの企画による出店や映画の上映などが行われ、大人たちといっしょに住民一同にぎやかなひと時を過ごします。

戸数の少ない地区でありますので、個々の役割や負担もあると思います。が、これからも先人たちが残してくれたこの地への思い、また、長野開拓者の子孫である誇りを忘れることのないように、私たちは受け継ぎ、語り継いでいかなければならないと思っています。

文責 井上庄八（長野）